

平成19年度 文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」選定

学生みずから発信する「自分史」作成支援 —社会のなかでの自己活用力養成プログラム—

「振り返り」と「自己評価」の繰り返しによって
自己理解を深め、社会人基礎力を培っていく
プログラムです



KOKUGAKUIN Univ.

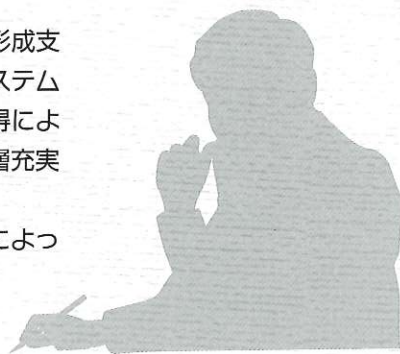
國學院大學

学生みずから発信する自分史とは

平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に、國學院大學の「学生みずから発信する『自分史』作成支援」プログラムが選定されました。

このプログラムでは、これまでに取り組んできた修学支援、キャリア形成支援、若木育成会(保護者会)への人的支援や、独自に開発した学生支援システムK-SMAPY(Webを活用したポータルサイト)の活用、ISO27001の取得による情報セキュリティの強化などをさらに発展させ、全学的学生支援を一層充実させることを目指しています。

学生は、みずから「振り返り」と「自己評価」を繰り返しおこなうことによって、自分の力を発見し、社会人基礎力を培っていくことになります。



K-SMAPYの活用

國學院大學では平成14年度に学修支援活動の一環として、WEBを利用したシステムの開発に取り組み、平成15年度から学生支援システム「K-SMAPY(Kokugakuin university Supporting system for Making Academic Plans and Yearly schedule)」を本格稼働させました。

このシステムは授業における教員と学生、あるいは学生間のコミュニケーションを円滑にし、教室以外の場所に学修の場を提供することを目的に設計されています。教員向け機能は受講データを基礎として提供されており、受講者名簿のダウンロードや出席状況の確認、教材のアップロードといった機能があり、授業を担当する全ての教員がこのシステムを利用できます。学生も履修登録、シラバスの閲覧、授業に関するお知らせ、教材参照、レポート提出、返却、フォーラムへの参加、休講情報等により、授業時間外の学修に広く活用しています。

本格稼働以後も、就職支援システム・学生生活支援システムの開発、図書館システムの連携といった拡充・発展に取り組み、現在では授業における教員と学生のコミュニケーションツールとして、また学生生活全般における情報収集のサイトとして、学生支援の一翼を担うシステムに成長しています。

こうした取り組みは「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」の選定にあたって、独自に開発したWEB支援システムが大きな成果を上げているとの高い評価を受けました。今回選定された「学生みずから発信する『自分史』作成支援」によって新たなサービスを展開することで、「K-SMAPY」が有効に活用され、國學院大學の学生支援の成果がより一層高まることが期待されています。

ISO27001の取得

ISO27001(ISO/IEC 27001:2005)は、組織が有効な情報セキュリティマネジメントシステムを確立し、運営管理していくためのモデルを提供する国際規格です。國學院大學は平成18年1月に同規格の認証を取得しており、先端的な取り組みとして注目されています。

「自分史」の作成を通じて、
学生が社会で活躍するための
基礎力を養成します。

本プログラム設立の背景

学生の学力、学修意欲、志向性が多様化してきた背景として、進学率の向上や入学試験制度の多様化があげられています。また大学入学までの教育カリキュラムが受験のための対策になっていることも見逃せません。こうした背景により、大学の主体的な学修スタイルに戸惑う学生が多いのも事実です。

下記の散布図は、平成19年度入学者の授業出席率と1年次前期GPA(※)との関係をグラフ化したもので、出席率とGPAはほぼ正比例の関係にあることを示しています。GPAが極端に低いC層には、精神的疾患による不登校や引きこもりの学生も含まれていますが、これらの学生は日常的な修学相談や若木育成会における面談によって顕在化され、特定の教職員による個別的な支援が施されています。このほかに心身とも健康であるにも関わらず、無為に日々を過ごしてしまう学生が、一定数存在しています。授業への出席率60%~80%の学生も含まれていますが、学修効果は上がっていないと判断できます(B層)。

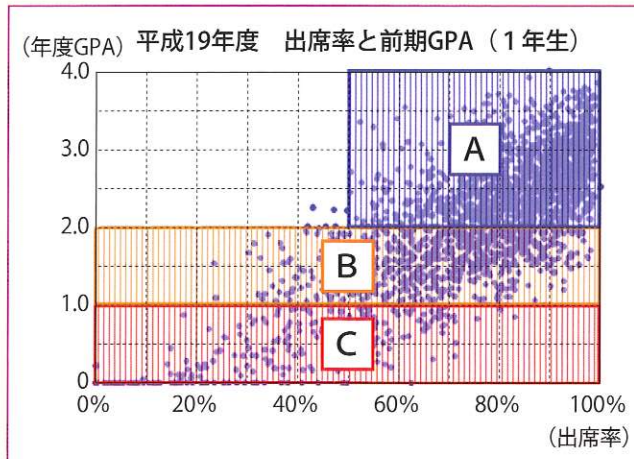
これらの学生達は、最終的に卒業できるものの、十分なキャリアプランニング、キャリア形成は実現できていないとみるべきです。

キャリアサポート課職員によるキャリアミーティングの結果によれば、彼らには

自ら進んで物事に向き合った経験が乏しく、自分のことをよく理解していないという共通点が見出されました。そのため将来の進路についても真剣に考えたことがなく、大学生活に目的を見出せないまま日常を過ごしているケースが多いのです。正課教育のターゲットが比較的学修意欲の高い学生(A層)におかれていることもあり、B層の学生は大学との関係が希薄な状況にありました。彼らは放置しておけばニート、フリーターとして社会へ出てゆく危険を含んでおり、たとえ就職しても早期に離職する可能性が高いと思われます。

※GPA(Grade Point Average)とは

4点を満点として、学期または学年ごとに学修結果(=成績)を指数化する成績評価基準です。これによって学生は客観的に自分の学修成果を把握することができます。本学では平成17年度に導入され、修得した単位の質を示す数値として、学生支援、修学相談などに活用されています。



これまでに取り組んできた学生支援システム、
情報セキュリティの強化による全学的学生支援を
一層充実させていきます。

社会で活躍できる学生を育てるために

本プログラムでは、これまでに実施してきた修学支援、キャリア形成支援の評価と分析をふまえ、学生が自己理解を深め、社会との関わりにおいて必要な力を自覚するためにコンピテンシー診断を実施します。

コンピテンシー診断の結果はK-SMAPYを介して学生に通知し、学生は自己認識を新たにしつつ、自己評価を行います。教職員による面談にも活用されることによって、自己評価と他者の評価とのギャップに気づくことが重要です。コンピテンシーを評価されることによって、自己を客観視する力を養うことができます。

この仕組みを学生が自分を映す鏡として活用し、授業や課外活動を通じて、広い視野と新たな能力の獲得に役立てることを目指しています。

意識改革を促して、自立する支援を
行き渡らせることをコンセプトとしています

Step 1

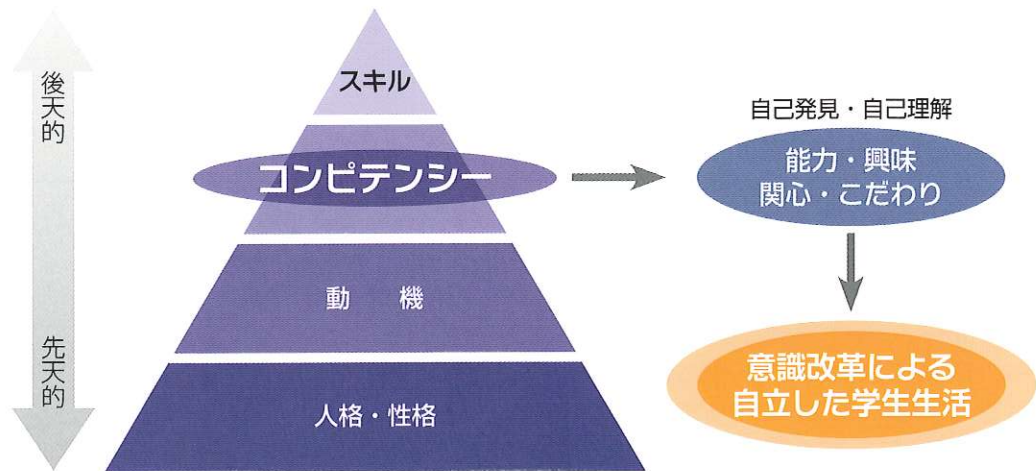
コンピテンシー診断の実施

コンピテンシー診断とは

従来行ってきた適性検査が、性格・価値観といったどちらかといえば先天的特性を測るのに対して、「能力・興味・関心・こだわり」といった後天的に獲得された行動や思考の特性にまで踏み込んだ検査を行い、学生に自分の強みと弱みを把握させ、自己理解の徹底を促すものです。

この行動特性の検査は、学生が実社会に出たときに、自己のどの特性が役に立ち、何が不足なのかを自分の目で見極めるために利用し、どのようなスキルを獲得して就職につなげていくかを、学生自身が考えていくものです。

コンピテンシー診断の概念図



コンピテンシー診断の目的

入学をゴールだと思ってしまった学生は、就職活動においても就職と入社を最終目標と捉えてしまうことが多いものです。

コンピテンシー診断は初年次から将来のキャリア形成に向けて主体的な活動を開始する動機付けです。「自己の適性に合った仕事」に就く可能性を広げ、ミスマッチによる安易な離職を防ぐことにつなげていきます。

そのために、学生生活に具体的な目的を見出し、就職活動においては就職後の人生を視野に入れたキャリアデザインを意識してもらうことを目指しています。

**学生は自分の強みと弱みを把握して、
自己理解を深めていきます**

Step 2

学生ポートフォリオ(自分史)の作成

学生ポートフォリオとは

コンピテンシー診断の結果をK-SMAPYに取り込み、それを起点として学生ポートフォリオの作成を推進します。

学生はコンピテンシー診断結果に対する自分なりの感想と評価を入力するとともに、今までの自分を振り返る作業を行い、自己評価を実施します。

大学からは入学時学力診断テストの結果をはじめ、学生の自己評価を促すための情報を提供します。学年進行に伴って授業への出席率、GPAなど大学から提供する情報を増やしていきます。

■大学から学生ポートフォリオに提供する情報

- ①ポートフォリオ作成の趣旨説明とメッセージ
- ②自己評価のためのデータ
 - コンピテンシー診断結果
 - 入学時学力診断テスト結果
- ③自分史を作成するためのデータ
 - 履修情報
 - GPA
 - 授業への出席情報と参加度
 - 提出リポートの履歴
 - 受講している教職、資格課程
 - 各種資格、認定試験の情報
 - 学内褒賞
 - 課外活動の記録

■学生が入力する情報

- ①自己評価のための項目
 - コンピテンシー診断結果に対する評価と感想
 - 過去にがんばって取り組んだこと(学業、課外活動、ボランティア、趣味、スポーツ、旅行など)
 - 大学生活においてこれからやりたいこと、抱負
- ②キャリア形成のための項目
 - 履修計画、卒業までの学修計画
 - 身につけたい力
 - 将来就きたい職業
 - エントリーシート
 - その他大学生活において記録しておきたいこと

学生ポートフォリオの有効性

学生ポートフォリオを教職員による修学相談やキャリアカウンセリングに活用することで、学生は他者からの評価に慣れ、客観的に自己分析をする力が身につくようになります。また自発的に「自分史」を発信することによって、必要とされる基礎力、特に自己表現力を高めるとともに、大学での学びにおける主体性や積極性を向上させていきます。

運用にあたって

この仕組みの運用には教務部、学生部、就職部の教職員すべてが関わり、ポートフォリオを学生カルテとして活用し、多様化する学生の「個」と「質」に対して直接働きかける学生支援を実現していきます。この仕組みをK-SMAPYを通じて運用していくことで多くの学生の参加が期待でき、教員もキャリア形成支援の最前線に参画することになります。これによって、不本意入学者や修学意欲の低い学生にもスポットをあてた体制を構築します。

徹底した自己理解の上に
キャリア形成を行っていきます

Step 3

社会人基礎力の養成

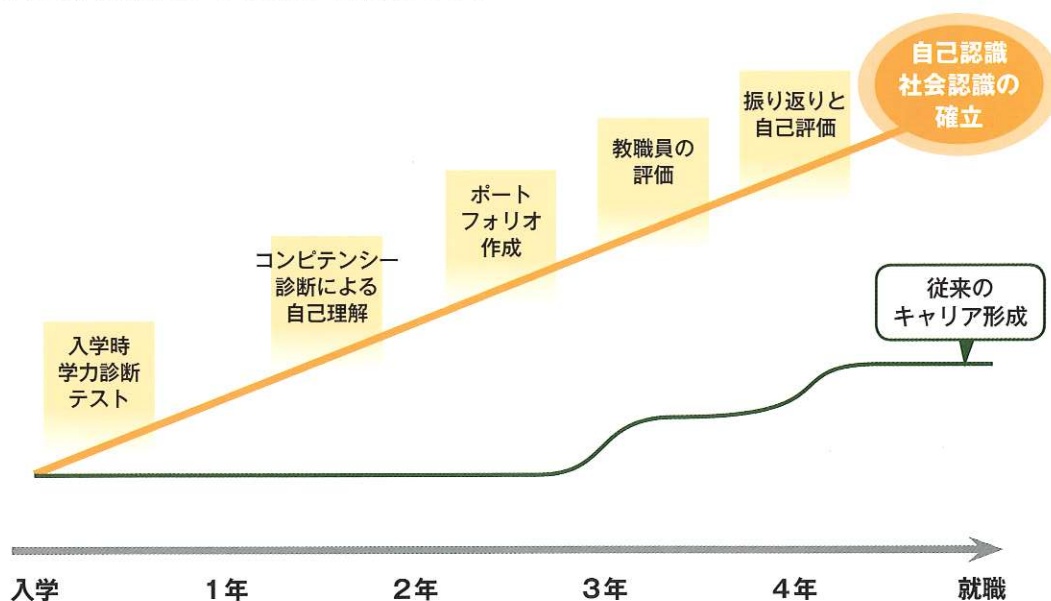
社会人基礎力とは

複雑・多様化した社会で生きていくための「社会人基礎力」

- 前へ踏み出す力
- みずから計画を立て実行する力
- 相手の意見を聴き、自己を表現するコミュニケーション能力 など

自分史作成のイメージ

コンピテンシー診断、振り返り、ポートフォリオによる徹底的な自己理解によって、社会人基礎力を備えた「自分史」を作成します。



社会人基礎力を育む取り組み

学生は「振り返り」と自己評価を繰り返し、自分史を教職員に積極的に評価してもらうことを通じて、社会のなかで自分を生かす道を模索していきます。そして、前へ踏み出す力、みずから計画を立て実行する力、相手の意見を聴き、自己を表現するコミュニケーション能力など、複雑・多様化した社会で生きていくための「社会人基礎力」を育てていきます。

入学者のなかには、自分の居場所を確保できずに大学生活の目的を見失ってしまう学生もいます。このような学生たちも、早い時期から自己分析をし、自分を活かす道をみずから考えることによって、授業や課外活動に新しい価値を見出すことができるようになります。

教職員がポートフォリオを活用することで、
自立と成長を促す支援ができるようになります

1 キャリアデザイン科目の開講

「新たな支援が必要」とされる学生を主対象にしたキャリアデザイン科目を、教養総合科目のなかに開講します。

この演習では自己発見や自己理解につながる内容を盛り込み、グループ学習を通じた学生参加型授業を展開します。大学生生活の振り返りと新たな目標設定を行うグループ学習に主体的に取り組むことによって、学生の「気づき」を促し、大学における学修に対する意識、意欲が高まります。

2 「総合コミュニケーションサイト(仮称)」の作成

日々の行動の軌跡を積み上げる「総合コミュニケーションサイト(仮称)」を構築します。

スケジュール みずから書き込む予定の他、個人に関係のある大学の予定をリンク

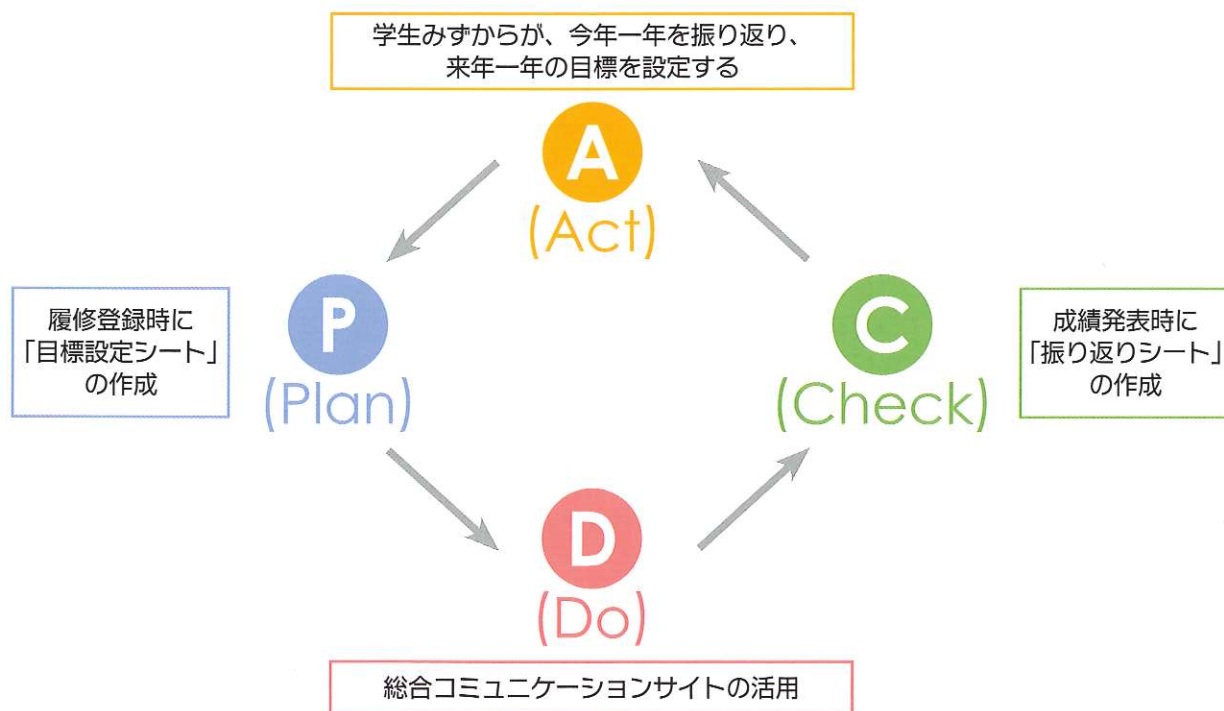
タスク みずから設定した「やりたいこと」「やるべきこと」の“見える化”

あしあと(仮称) 振り返り、自己評価をおこなうための材料となる日記(日々の記録)

3 「目標設定シート・振り返りシート(仮称)」の作成

K-SMAPYに履修登録時の目標設定と、成績発表時の自己評価・自己再認識の機会を提供します。

■マネジメントサイクル「PDCA」のプロセスによって、自分史を作成していきます。



学生支援GPとは

学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取り組みを含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図るものです。

文部科学省：大学教育の充実－Good Practice－

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/gakusei.htm

本プログラムの選定理由

國學院大学では、長年にわたってITシステムを活用した学生支援の取組が行われてきており、独自に開発されたWeb支援システムは、大きな成果を上げています。

また、今回申請のあった「学生みずから発信する『自分史』作成支援」の取り組みは、修学意欲の啓発、自己理解の伴うキャリア形成、教員の学生支援の精緻化などを目的としたものであり、学生の自己診断、学生ポートフォリオの作成等によって、学生支援をさらに展開させようとする有意義な試みです。

特に、不本意入学者や修学意欲の低い学生の支援を行う上で、この取組は、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。



國學院大學

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1

www.kokugakuin.ac.jp